

【講演内容】

接着修復材料の進化によって MI(minimal intervention)の実践が可能となり、齲蝕治療への取り組み方が大きく変わりました。しかし、「最小限度の外科的侵襲で治療する」ことは、考えてみれば医科では常識ではあり、医療において当たり前のことと言えます。

この MI 実践のためには、今まで修復物が適合するように窩洞形成をしていた修復学から、「齲蝕治療」とそれに伴って生じた実質欠損に対して接着を生かしておこなう「修復処置」とを立て分けて考えることが必要となります。

約 10 年以上前に歯学部を卒業した歯科医師にとって、MI を支える「接着修復」という比較的新しい学問に関しては、象牙質接着についての講義や実習を卒前教育の場で受けていなかったのが実状です。したがって、接着についての基礎的な教育を受けていない臨床家の多くは、日々の診療の中で、少なからず不安を感じながらも接着修復の何たるかを手探りで学びつつ、確信を得られぬまま実践しているのではないのでしょうか。

言い換えれば、治療の対象となる齲蝕の病理を再認識し、良好な歯質接着を得るための十分な知識がなければ、最良の結果を患者に与え、接着歯学の恩恵を享受することはできないといえるでしょう。

そこで、今回の講演では

- ①齲蝕治療のあり方と MI の基本概念
- ②確実な接着を得るための知識とテクニック
- ③どのボンディングシステムを選べばよいのか？ 2ステップと1ステップボンディングシステムの長所と問題点
- ④接着修復に必要なアイテム
- ⑤接着修復の幅広い臨床例の提示など、明日からの臨床に役立つ接着修復法についてお話を致します。